

＜計画の方向性＞

- 広い県土を有する本県の潜在力を十分に活用して、県民に安全・安心で美味しい食料を安定的に供給することが求められている。
- 参入障壁を含む農業の“あたりまえ”を見直し、従来とは異なる切り口で、「楽しく儲かる」農畜水産業を実現するとともに、**食料自給率を着実に向上させていく必要がある**。[現状維持は衰退。全国平均に近づけるよう、国の約2倍のペースで向上させていく。]
- ➡そのためには、“多様な主体の参画促進”をはじめ、4つの基本方針のもと必要な施策を推進

＜基本方針1＞ 多様な主体の参画促進

1 アグリパーク構想の実行

- ①重点推進モデルの構築・展開
 - ・中山間課題解決モデル
 - ・直売所(飲食店・学校給食)活性化モデル
 - ・働いてもらい方改革モデル
- ②開設・運営等の体制づくり
(農地あっせん、技術サポート、農機のシェアなど)
- ③意欲ある活動主体への支援
(教育、福祉など多様な価値創出など)

2 地域農業を牽引する経営体の育成

- ①経営継承の推進、就農ルートの充実
- ②農外企業・サービス事業体の参入促進
- ③非農家による担い手サポートの仕組みづくり

＜基本方針2＞ 潜在力をフル活用した生産強化

1 農畜水産物の供給力強化

- ①品目特性に応じた生産性向上
※米と米以外の品目で整理
- ②生産拡大を担う経営体への支援強化
- ③スマート農業など省力生産への転換
- ④ほ場の大区画化・集約化・汎用化
- ⑤農業用水・排水条件の確保

2 魅力ある農畜水産物づくり

- ①稼げる産地づくりの促進
[野菜] [果樹・花き・茶] [米・麦・大豆]
[畜産物] [水産物]
- ②新たなブランド品目の創出・発展

＜基本方針3＞ 新たな流通ルートの開拓、販路拡大

1 品目に応じた新たな流通ルートの開拓

- ①実需者・消費者に至る販売チャネルの多様化
- ②広域集出荷システムの構築・展開
- ③県内の飲食店等への供給体制構築
- ④食肉生産・供給体制の強化

2 立地や集客力等を活かした販路拡大

- ①身近な大消費地・名古屋圏での販路拡大
- ②新たな海外輸出戦略の展開

3 消費者との信頼関係構築による販路拡大

- ①環境調和型農業と消費者をつなぐ新たな仕組みづくり(地消地産の推進)
- ②生産者等の創意工夫を活かした販売力強化

＜基本方針4＞ 安心できる農畜水産業と農村の環境整備

1 気候変動への対応

- ①異常高温等の影響緩和技術の開発・普及
- ②温暖化を逆手にとった攻めの対策推進

4 生産を脅かすリスクへの対応

- ①家畜伝染病に対応できる畜産産地づくり
- ②外来生物による被害への対応

2 持続可能な農業生産・農村づくりの推進

- ①温室効果ガスの削減
- ②有機質肥料活用など環境調和型農業の推進

5 地域資源を活かした農村振興

- ①農泊を軸とした棚田等農村地域の活性化
- ②水産資源を含む里川システムの保全・活用・継承

3 鳥獣害防止対策の推進

- ①獣種別被害対策モデルの構築・展開
- ②ジビエ利活用の拡大促進

6 農村の防災・減災対策の強化

- ①田んぼダム等による流域治水の推進
- ②ため池を含む農業水利施設等の災害対策